

## 学校評価書 2017年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 本年度の重点目標(学校評価の具体的な目標や計画)

本校教育の根幹となる建学の精神を基盤に、本校ならではの人間教育と学力の向上を継続し、また世界・社会の変化に対応できる教育構築の第一歩の年とする。

2. 自己評価

評価点は、A(十分に効果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
建学の精神に基づく人間教育(教部)	生徒・教職員がともに礼拝を大切にしている。	<p>毎朝の礼拝の時間を大切に、聖書の言葉やお話からキリスト教の理解を深める。</p> <p>生徒が讃美歌をより大きな声で歌う工夫、生徒・教職員が親しむ聖書箇所を増やす。</p> <p>生徒による礼拝のオルガン奏楽を取り入れる。</p>	A	<p>中高全教員や理事長、専務理事、遠州栄光教会教職者等の協力のもと、中高共に毎朝礼拝をまもることができた。讃美歌を賛美し、聖書を読み、メッセージを聞き、祈りを捧げ、落ち着いたなかで一日を始めることができた。</p> <p>朗読礼拝は放送部の朗読により、旧約聖書創世記を読み進めることができた。</p> <p>教職員会議も礼拝をもって始めた。</p> <p>生徒による礼拝奏楽を一部とりいれている。</p>	A	<p>公立とは一味異なる、私学ならではの+アルファの人間教育に期待したい。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	聖隷の精神 歴史伝統を大切にしている。	日々の礼拝や特別礼拝で「聖隷」についてお話しをしていただく。 宗教行事から聖隷の伝統への理解を深める。 中・高生の聖隷歴史資料館の利用検討。	B	<p>毎朝の礼拝では、遠州栄光教会牧師、学園理事長、専務理事及び中高教員等から「聖隷」についてのお話を聞く機会があり、聖隷の精神の継承に役立っている。</p> <p>クリスマス時期には、アドベントクランツ、クリスマスツリーの飾りづくり、クリスマス礼拝のページェント等、生徒が関わり、準備することが本校の良い伝統となっている。</p> <p>歴史資料館利用については従来中学1年と高校1年英数科は見学を実施しているが、高校普通科の見学等について継続して検討する。</p>	B	いろいろな講師のお話を聞く機会に恵まれていて、大変良いことだと思う。

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	宗教教育行事を充実し、キリスト教主義の学校の校風を醸成している	<p>イースター、花の日の礼拝、クリスマス礼拝の工夫・充実。</p> <p>特別礼拝を年3回行う。</p> <p>「宗教部通信」を生徒会宗教員会に委ねる移行期間とする。</p> <p>専任教職員・保護者への宗教行事への参加の呼びかけをする。</p> <p>クリスマスツリーの点灯祭を大学・こども園と協力して実施する。</p> <p>毎月の献金実施。</p>	A	<p>今年度も4月第三週月曜日をイースターの礼拝と設定し、礼拝をまもった。</p> <p>6月 21 日に全校生徒が花を持ちより花の日礼拝をまもり、その後警察・消防等や諸施設に花束を届けた。</p> <p>第一回(5/9)キリスト教学友会 大嶋重徳さん 第二回(10/31)音楽礼拝クリスチャンシンガー YURIE さん 第三回(3/12)小羊学園 施設長 出水巖生さん(予定) をそれぞれお招きし、全校生徒でメッセージを聞くことができた。</p> <p>生徒会宗教委員長が中心となり、毎月一回通信を発行し、献金や行事について情報発信している。</p> <p>学園点灯祭には、中高の聖歌隊・ハンドベル・吹奏楽部が協力・参加した。</p> <p>毎月一回献金をおこない、国境なき医師団をはじめ、国内外の施設・諸団体へ献金した。</p>	A	<p>クリスマスのイルミネーションは地域住民にとっても、心豊かになるものであった。中高生も参加しているとは、知らなかった。「ひとつの学園」を感じさせられる。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
<p>導部、英数科、教務部)</p> <p>確かな進路実現(進路指)</p>	<p>進路指導ができています</p> <p>確かな進路実現のための</p>	<p>クラス担任としての指導技術向上:生徒への動機づける。(心に火をつける)</p> <p>正しい進路情報の把握と分析・検討</p> <p>進路行事の前倒し</p> <p>面談充実、こまめな声掛け</p> <p>高大接続(入試改革等)の情報収集、研究と準備をする。</p>	B	<p>担任による丁寧な個人面接や前倒しされた進路行事により動機付けも進んでいるが、家庭学習の時間は生徒により差があり、課題として残る。各担任によるHRでの掲示や話に工夫も見られており、教員が実践例を共有できるようにしていく。</p>	B	<p>担任の先生の指導が生徒にとって一番の励ましになる。先生方には技術と愛情に裏付けられたノウハウを身に付けていただきたい。</p>
<p>部、企画研修部)</p> <p>授業力指導力の向上(教務部、進路指導)</p>	<p>教員の授業力が向上している</p>	<p>教科担当者の指導技術向上:1年時からの泥臭い教科指導をする。</p> <p>家庭学習を取り込んだ授業、個別指導の充実</p> <p>授業アンケートの有効活用</p> <p>新学習指導要領を見据えた指導の工夫と実践をする。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの工夫と実践</p> <p>ICT授業の研究と実践</p> <p>授業シラバスに沿った授業展開、評価、そして評価方法研究とシラバスの改善をする。</p> <p>中学・高校の教育課程の研究と改善をする。</p>	B	<p>授業アンケートは年間2度実施し、2度目の際には1度目のアンケートからの授業改善の有無を質問する形式に変え実施し、その結果を教員全体で共有した。</p> <p>研修出張後のレポートを全教員がPCで閲覧可能にし、情報の共有化を図った。</p> <p>また、県外研修については職員会議、研修会の際に報告を依頼した。</p>	B	<p>企画研修として、授業アンケートの改善、研修レポートの可視化を図ったことは、前進であった。</p> <p>来年度も改善を進め、特に校内での研究授業に力を入れたい。</p> <p>新しい教育の流れを研修し実際の生徒との学びに取り入れてほしい。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	保健医療福祉分野への進学希望者の育成をしている	<p>聖隷プロジェクト(通称「P クラス」)を中心とした専門職の理解と自分の目指す進路意識の維持をさせる。</p> <p>プログラムには参加型のワークや仲間とのやりとりを盛りこみ、各回ごとにレポートを書かせ、回ごとの内容や自分の考えを要約し、的確に表現する力をつけさせる。2年の学年末には各自でテーマを決めて学習成果をまとめ、意見交換のグループワークをさせる。</p> <p>大学での聖隷クリストファー大学教員からの講義により、大学を身近に感じ、各学科の特徴や社会との関わりについて知り、高い職業観をもたせる。</p> <p>様々な学びを通して「生命」や「人間の尊厳」など、「人」に関する基本的な考え方を学ばせる。</p> <p>聖隷三方原病院・看護協会主催の看護体験・リハビリ体験等への積極的参加を促す。</p>	A	<p>聖隷プロジェクト(通称Pクラス) 高校1～2年生対象のプログラムで、今年度も多くの生徒が希望して参加(1年 68人、2年 60人)。</p> <p>生徒は聖隷クリストファー大学3学部(看護、リハビリ、社会福祉)から希望の学部を選び、1年は入門篇、2年は専門化した内容で講義を受ける。今年度から講義いただいた大学の先生方へのフィードバック(生徒作成のワークシートからサンプルをお送りする)を行なった。2月末には2年生全員が自己の研究テーマのプレゼンテーションを行なう。</p> <p>このプログラムで、保健医療福祉分野の理解を深め、将来の進路のミスマッチを未然に防ぐことにつながっている。</p> <p>なお日教弘奨励金 10万円の交付を受け、参考文献の購入に充てて活用させていただいている。</p> <p>、 キャリア教育の一環として聖隷クリストファー大学等の先生にお話を依頼、また本校教育内でも、「生命」「人間の尊厳」などを生徒に考えさせている。</p> <p>多くの生徒が、聖隷三方原病院や県看護協会主催の看護体験等にも積極的に参加している。</p>	A	<p>聖隷ならではの分野を志望する生徒が増えていくことは、本校の存在意義がこの地域で認められているあかしである。</p> <p>中・高生のうちから、大学や病院、施設などと連携した体験学習が一層進むのが望ましい。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	セミナーハウスを積極的に利用している	<p>毎日の放課後のセミナーハウスの利用を生徒に促す。 様々な対象へのきめ細かな勉強合宿の企画と実施をする。 オリエンテーション合宿等、全生徒対象の合宿を通して、学習姿勢作り、クラスづくり等に役立てる。</p>	B	<p>高校1年生全クラスを対象とした初期指導(オリエンテーション)合宿(4～5月)、高校2年生英数科の夏合宿(7月)、テーマ別勉強合宿(12月)を実施した。合宿時には、担任の面接に加えて、英数科長講話を組み込むなど新たな取り組みを始めており、具体的な行動(学習)を後押しするプログラムになった。 放課後の自学自習の場に加えて、2学期中間試験以降の高校3年生用自習室として活用し、受験対策に専念できる環境を整えている。</p>	B	<p>放課後に学内で勉強できる場所が保障されるのは、ありがたい。せっかくの施設なので利用が増えてほしい。</p>
生徒指導の充実(生徒指導部)	<p>建学の精神の元で自ら考え、判断し、行動できる生徒を育てる</p>	<p>諸活動を通して、生徒に考えさせ、判断させる企画を増やす。 部活・委員会の充実により、帰属意識を高め、規範意識の向上を図る。</p>	B	<p>ほとんどの生徒が部活動に加入し、充実した活動を行っている。 部活動ごとに、挨拶等のマナー・規範意識を高める取り組みがなされている。</p>	B	<p>学習だけでなく、様々な活動をする場が学内にあることは、言葉遣いや礼儀、実行力を育てる訓練になる。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	<p>全教員一致した生徒指導のもと、生徒は外見内面ともに、はじめの誠実な生活をおくっている。</p>	<p>交通事故防止のため、交通安全教室、自転車整備、交通安全マップ作製、校外指導等に努める。</p> <p>報・連・相をもとに、情報の共有、早期発見、早期対応を行い、問題行動数を抑える。</p> <p>変化する生徒・保護者・社会に対応する。</p>	B	<p>交通安全マップ作成は次年度も継続して取り組む。赤色 TS マーク導入により自転車の整備が定着しつつある。</p> <p>近隣の危険個所については警察等協力しながら今後も指導・対策を行い、登下校の安全確保をすすめる。</p> <p>問題数は減少しているが、スマホ・SNS等が原因となる問題等は増加傾向にある。</p> <p>本校ではネットパトロールを導入して、問題の拡大・深刻化を防いでいる。</p> <p>服装・髪型指導については、定期的に確認・指導を行い、はじめのある服装を意識できるように指導している。</p> <p>変化する生徒の理解・指導のために、教員のメンタルサポート等の研修参加をすすめていく。</p>	B	<p>交通マナーなど、時々周辺住民の気掛かりになる行動もある。地域も共に育てるといふ気持ちで協力していきたい。お互いに遠慮せずに情報交換できる関係を保持していきたい。</p>

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
中高一貫教育の推進(中学)	生活姿勢と学習姿勢を整えさせ、学力の向上をめざす	授業担当者とクラス担任の連携を強化する。 生活姿勢と学習姿勢を整えさせ、学力向上をめざす。	B	担任と教科担当が協力をして、課題提出の徹底指導を行っている。未提出が続いている生徒へは、働きかけや面談を通して改善を促している。また、長期休み前に、課題未提出者を集め、指導することができた。少しずつではあるが効果が上がっている。 年度当初「1分前着席」を重点的に呼びかけたが、1年間を通して、徹底には至らなかった。その他、「挨拶の励行」「学校のルール」を守らせることも徹底する必要がある。	B	私立中学校への進学はまだ少数ではあるが、きめの細かい指導によって、中学校の内容が充実向上し、存在感を増していくことは喜ばしい。 教育が多様性を増していく時代にあって、一つの選択肢として存在し、貢献できる学校になってほしい。



評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
	聖隷クリストファー中学の特色を確認し、創造し、発信する	<p>聖隷の精神や特色を学び = 教え、日頃の場面指導や行事内容に、それらを反映させる。</p> <p>行事の充実させる。</p> <p>成績上位者を伸ばす方策 ~ 6 年間一貫教育が実質的に実現していくための取り組みをして、英数科への進学者を増やす。</p> <p>成績下位者への懇切丁寧な指導をする。</p>	B	<p>中学入学後にオリエンテーションの一環で聖隷資料館の見学、文化祭 HR 展でのキリスト教や聖隷に関する調べ学習の発表、年度末に聖隷の施設で体験学習をする聖隷探検隊を実施、2年生の文化祭では聖隷探検隊の内容を発表をする流れが定着している。</p> <p>生徒会執行部、専門委員会が企画立案した行事が行われた。</p> <p>5教科については、夏・冬の講座、年3回の模試のプログラム、長期休み後の課題テストを実施している。</p> <p>夏冬の講座で理科・社会を重点的に行うことによって時間数不足を解消している。</p> <p>中学3年生、夏2学期以降の5教科総復習のプログラムが定着した。</p> <p>学力上位層には、特別な課題補習を行い(数学)、さらに伸ばしていく取り組みをしている。</p> <p>今後は、新たなプログラムを実施していくのではなく、現在行っているものをより良くし、徹底して行い、英数科への進学者数とレベルをアップさせていきたい。</p> <p>次年度高校英数科への進学者は 23 人であるが、学力推移調査の平均偏差値 56(10 月)、実力テスト(高校入試学力検査と同じ問題)で外部受検との総順位で 10 位以内に4名入るなど、レベル的には過去最高になった。</p> <p>学力下位層には、定期テストごとに追試補習を行い、学力の底上げに努めている。</p>	B	<p>充実したプログラムが組みられ、粘り強い指導が行われていると感じる。</p> <p>一步一步レベルが上がっていくことを期待したい。</p>